

知の技の創造

ものづくり大学発

▷46◁

久保隆太郎 建設学科准教授

健康で快適な建築求め

は、ライフサイクルの内、60 スビルのエネルギーマネジメ 録する41・1℃を記録しまし %以上を占めるといわれてい ントを実施し、地球環境に配 た。この異常なまでの気温高 ます。筆者は前職では組織設 慮し建物の実現を目指しま 温化については「気象庁は「一 計事務所のシンクタンクにお す。

この「災害」と認識している

熊谷市内の市中心部や郊外を キーワードをもとに複数件抽 対象にして複数箇所の温度 湿度等を観測して、温湿度の 的に選ばれるテナントの条件 としての評価を行っています。こ として、建物の使いやすさ、 れにより、熊谷市のような比 コミュニティスペースの充 較的小規模な都市での土地被 覆状態の違いによる温熱環境 の健康維持のための施設等が 決めることになり、 クライアントにはこれらを重 視した評価ツールを開発・提 案しました。この経験をもと に、17年から健康で快適な建 物を評価する新しいツール (CASBEERウェルネス オフィス、19年3月に公開) いた。テナントが入居するオフ ースビルを選定する際には、 新・近・大(新しい・駅に近 しい・規模が大きい)がもっと も重要視される傾向にあり、 数ある建物の中からこれらのす。

健康な建物の評価

くぼ・りゅうたろう 建設学科・准教授・博士(工学)。
明治大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修 了。明治大学理工学部助手、熊本大学産学連携研究員、日 本学術振興会特別研究員P.D、日建設計総合研究所 主任 研究員を経て、2018年より現職。専門は建築設備、エ ネルギーマネジメント。



私はこれまで建物や街区を 対象として、建築設備が適正 に運用されているか、無駄の ない運転をしているか、とい ったことを明らかにするため に、建築設備のエネルギー評 価やシミュレーションを行っ てきました。また、都市化に より、都市部の気温が郊外よ りも高くなるヒートアイラン ド現象に関する研究や、建物 性能を総合的に評価するツ ールの開発などに携わってき ました。今回は、本学で学生と ともに行っている研究の一部

いて、大規模な建物や街区を 対象にして多くのエネルギー 評価を行ってきました。本学 日、国内の観測史上最高を記 ています。私の研究室では、

熊谷市におけるヒートア 発表しました。この熊谷市の 気温高温暖化の原因は、フェ ーランド 熊谷市は2018年7月23 ン現象によるものと考えられ

る重要なテーマと考えていま